

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	令和5年度第1回武蔵村山市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和5年10月25日(水) 午後7時から午後8時35分まで
開 催 場 所	402学習室AB (武蔵村山市役所4階)
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：木村会長、荒井副会長、若山委員、高山委員、夏井委員、 押本委員、波田委員、高橋委員、細谷委員、田中委員、 小川委員、原田委員 欠席者：亀田委員、杉原委員、前田委員 事務局：子ども家庭部長、子ども青少年課長、子ども青少年課手当・ 青少年係長、子ども青少年課保育・幼稚園係長、子ども青少 年課保育・幼稚園係担当 受託業者：株式会社名豊
議 題	(1) 会長及び副会長の選任について (2) 「武蔵村山市子ども・子育て支援事業計画」ニーズ調査等の実施 概要及び調査票(案)について (3) その他
結 論 (決定した方針、残 された問題点、保留 事項等を記載す る。)	議題1について 会長に木村委員、副会長に荒井委員が選出された。 議題2について 各調査票については、委員の皆様からいただいた指摘事項等を踏ま え、会長と事務局及び子ども・子育て支援事業検討委員会で調整の上、 内容を確定させることとする。 議題3について 次回の子ども・子育て会議については、1月頃を予定している。 内容については、生活実態調査の高校生分と子ども若者を取り巻く 状況調査案の2点について協議していただく予定である。 具体的な日時については、改めて調整の上、各委員に通知する。
審 議 経 過 (主な意見等を原則 として発言順に記 載し、同一内容は 一つにまとめる。)	1 開会 2 委員の紹介 3 議題 (1) 会長及び副会長の選出について 一事務局から、会長及び副会長は武蔵村山市子ども・子育て会議 条例第5条第1項の規定により委員の互選により選任するこ とを説明— <質疑応答> 特になし。 <結論> 会長に木村委員、副会長に荒井委員が選出された。 (2) 「武蔵村山市子ども・子育て支援事業計画」ニーズ調査等の実 施概要及び調査票(案)について 一事務局から各ニーズ調査等の実施概要及び調査票(案)の内容 について説明—

<質疑応答（子育て支援に関するニーズ調査）>

- (委員) 子育て支援に関するニーズ調査において、問5、問6、問11などで、「お子さんの子育て（教育を含む）」という文言があるが、一方で、問14や問15では「（教育を含む）」の記載がないが、除いているのには意図があるのか。
- (事務局) 保育業界では、「教育保育」という言葉があるので、問5などには「（教育を含む）」と記載していたところだが、統一性がなかったため、「（教育を含む）」の文言は削除し、一貫した表現に修正する。
- (委員) 子育て支援に関するニーズ調査の15ページ問30の設問の中で、「1 一時預かり」の選択肢があり、そのかっこ書きの中に、「私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業」と記載がありますが、一時預かり事業は、理由を問わずではなく、一定の理由があって、該当すれば対象となるものであったかと思うので、記載内容について改めていただきたい。
- (事務局) 御指摘のとおり、一時預かり事業は、保護者の冠婚葬祭や傷病、親の介護等で緊急又は一時的に家庭の保育が困難な場合に対象となる事業であるため、記載内容を正しい表現に修正します。
- (事務局) 10月11日に開催された子ども子育て支援事業検討委員会で出た意見について情報共有させていただく。
子育て支援に関するニーズ調査（小学生のお子さんの保護者用）の10ページ問19については、夏休み・冬休みなどの休業期間中の学童クラブの利用希望を伺っているが、「毎日利用したい」の選択肢がないため、その選択肢を入れてもよいのではないかという意見があった。そのため、事務局としては、今後、この選択肢を追加する予定である。
- (会長) 子育て支援に関するニーズ調査の両調査票（就学前・小学生）において、3ページの間11の選択肢が異なる点について違和感がある。
小学生のお子さんの保護者用調査では、児童館や図書館、放課後子ども教室等の様々な選択肢があるが、就学前のお子さんの保護者用調査では、その選択肢がない。就学前のお子さんでも、児童館や図書館等を利用するのではないかと思う。
- (事務局) 御指摘のとおり、実態に即していないため、就学前調査票については、選択肢を追加する方向で検討する。
- (会長) 小学生調査票と揃えるのであれば、就学前調査票で保育所、幼稚園、認定こども園はそれぞれ選択できるようになっているが、平日に通っている施設として、ひとまとめにしてもよいと考える。
- (委員) 就学前調査票の14ページ問29-4において、「4 利用料がかかる、高い」と「5 利用料がわからない」という選択肢があるが、利用方法がわからないという方もいるので、選択肢を追加した方がよいと考える。
- (事務局) 選択肢について改めて検討する。
- (委員) 子育て支援に関するニーズ調査全体を通して、気になったのが、特別支援教育や発達障害を抱えている家庭の実態を把握する質問項目がないように感じた。

	<p>(事務局) 本調査においては、発達障害の方に焦点を当てた設問は設定していない。</p> <p>(委員) 保護者においては、就学相談で大変悩んでいるところがあり、また、特別支援教育も認知されているところで保護者の方が苦しんでいることを把握している。 学校には専門的な勉強をした先生がいるが、学童ではそのような方がいないため、学童に行くことで先生のみから離れ、いじめが発生したということがあった。 それで学童をやめることになったが、保護者の方は働いているので、どこかに子どもを預けなくてはならなくて悩んでいるということもあるので、そのような視点に応じた選択肢があってもよいと考える。</p> <p>(事務局) 改めて内容を確認した上で、選択肢の追加等について検討する。</p> <p>(委員) 小学生調査票の17ページ問30で「あなたの周りにヤングケアラーと思われる人がいた場合、どのように対応をしますか。」という設問があり、その選択肢に「関係機関や小平児童相談所等に相談する」とあるが、一時的な窓口としては子ども家庭支援センターなのではないかと思う。</p> <p>(事務局) 御指摘のとおり、最初の窓口としては子ども家庭支援センターとなり、情報を集約した後に小平児童相談所の方々と協力して対応することになるかと思うため、選択肢については所管課と調整の上、修正する。</p> <p>(委員) 小学生調査票の11ページ問20で学童クラブに関する設問があり、そこで放課後子ども教室の説明があるが、放課後子ども教室の利用は無料か。</p> <p>(事務局) 放課後子ども教室については無料で、学童クラブについては有料である。</p> <p>(委員) 学童クラブと放課後子ども教室で違いがあるのであれば、その違いを明記していただきたい。</p> <p>(会長) 就学前調査票の26ページ問46-1において、子どもの権利条約に関する設問があるが、各選択肢については主語が分かりにくいいため、記載内容を検討した方がよいと考える。</p> <p>(事務局) 各選択肢に主語を追加する方向で修正する。</p> <p>< 質疑応答 (生活実態調査) ></p> <p>(委員) 資料3の4ページには、各種調査票の調査方法が書いてあり、そこで郵送配布・回収と記載があるが、小学生用調査票では、「書き終わったら担当の先生に出してください」と記載がある。 これは、どちらの対応が正しいのか。</p> <p>(事務局) 5年前に実施した生活実態調査のときは、学校で配布・回収を行い、取りまとめたものを受託業者が回収に行く形式であった。今回は、配布は学校にお願いしたいと考えているが、回収については、学校側で一旦保管するのは氏名が書かれていなかったとしても、いかがなものかといった意見があったため、回収は郵送でできないか受託業者と調整中である。</p> <p>(委員) 生活実態調査については、公立小学校に通う小学5年生と中学2年生に配布することのだが、特別支援学級の子どもたちにも配布するのか。</p>
--	--

	<p>(事務局) 前回は特別支援学級の子どもたちに配布しているため、今回も特別支援学級の子どもたちを含めて、配布する。</p> <p>(委員) 本計画を策定するに当たって、通常級の子どもたちの意見と、特別支援学級の子どもたちの意見を合わせて集計してもよいのか疑問に思う。今回の調査では、通常級と特別支援学級を分けることは難しいと思うが、特別支援教育、発達障がい、知的障がいがある子どもに対しての子どもからの意見と親からの意見を収集できるようなものがあれば望ましい。</p> <p>(委員) 今の意見については大事なことで、今後の計画を策定する際に、取り入れるべき考え方だと思う。そのため、アンケートの項目の中で、どのように設問・選択肢を盛り込むのか検討する必要があると考える。</p> <p>(事務局) 現時点では、特別支援学級の子どもたちに関する設問・選択肢を設定する予定はないが、検討させていただく。</p> <p>(会長) 小学生用調査票の11ページ問30の居場所に関する設問について、保護者の方々にお聞きしたいが、「学校以外にここに居たいと感じる居場所がありますか。」という言葉で意味が伝わるものなのか。具体的な場所を記載したほうがよいのではないかと思うがいかがか。</p> <p>(事務局) 子ども・子育て支援事業検討委員会でも同じような意見が出ていたが、事務局としては具体的な場所のニーズを伺うよりも、今の子どもたちにとっては、どのような居場所にニーズを感じているのか確認したいため、このままの設問で行きたいと考えている。</p> <p>(会長) ここに居たいと感じる居場所については、地域にもよると思うが、近所の方と仲が良かったり、友人宅が近くにあったりした場合は、公共施設等の居場所ではなく、友人宅に集まるといった地域もあるのではないか。</p> <p>(事務局) 選択肢については、もう少し幅広く検討させていただければと思う。</p> <p>(委員) 小学生用調査票の4ページ問5-1において、クラブ活動に参加しない理由として、2番目に家の事情が記載してあるが、一般的には習い事のほうが多いのではないかと思う。 また、身体に問題があったり、不登校になっていたり、自分の事情によってクラブ活動に参加していないということもあると考えられるため、「自分の事情」という項目もあった方がよいと思う。</p> <p>(事務局) 生活実態調査については、東京都立大学の調査票を基に作成しているため、修正内容については東京都立大学に確認の上、検討させていただきたい。</p> <p>(委員) 小・中学生用調査票において、睡眠時間についての設問項目はあるのか。昨今、ゲームやSNSといった様々な時間を割くツールがある一方で、睡眠時間の確保というのは重要なものと思われる。</p> <p>(事務局) 設問項目の追加については、東京都立大学と調整の上、検討させていただければと思う。</p> <p><質疑応答(ひとり親家庭ニーズ調査)></p> <p>(委員) ひとり親家庭ニーズ調査は児童育成手当の受給者全員に配布するとのことだが、調査対象として外国人が含まれると思う。本調査については、外国人の保護者用として、</p>
--	---

	<p>英語等に対応した調査票を作成する予定はあるのか。</p> <p>(事務局) 英語等の多言語に対応した調査票の作成については対応が難しい。</p> <p>(委員) 各自治体はどのように対応しているのか。</p> <p>(名 豊) QRコードで外国版の調査票に誘導することは可能。今回の調査票において対応する場合、表紙に日本語版と英語版のQRコードを併記する形で構成することになると思う。ただし、対応可能なのはWEB上でのみとなる。</p> <p>(事務局) 多言語に対応した調査票については、受託業者と調整させていただければと思う。</p> <p>(会長) 各調査票については、委員の皆様からいただいた指摘事項等を踏まえ、私と事務局及び子ども・子育て支援事業検討委員会で調整の上、内容を確定させていただければと考えているが、いかがか。</p> <p>(各委員) 意義なし。</p> <p>(事務局) 各調査票の内容については、事務局等と調整の上、確定させていただく。なお、内容が確定したら、委員の皆様には参考までに完成した調査票を送付させていただくので、よろしく願います。</p> <p>(3) その他</p> <p>(事務局) 次回の会議の日程について報告する。次回の子ども・子育て会議については、具体的な日にちが確定していないが、1月頃を予定している。内容については、生活実態調査の高校生分と子ども若者を取り巻く状況調査案の2点について協議させていただければと考えている。具体的な日時については、改めて調整の上、各委員に通知させていただくのでよろしく願います。</p> <p>4 閉会</p>
--	--

<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非 公 開</p> <p>傍聴者： 0 人</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p>()</p>
--------------------	---

<p>会議録の開示・非開示の別</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 開 示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非 開 示(根拠法令等：)</p>
---------------------	---

<p>庶務担当課</p>	<p>子ども家庭部 子ども青少年課 (内線：184)</p>
--------------	---------------------------------

(日本産業規格A列4番)